

ENER ワークショップにおける一般的に合意された結論

(ENER Bulletin 25.02 “Successfully Promoting Renewable Energy Source in Europe” 2002 Dec.)

1. 欧州連合の多くの国は 2010 年の目標(2001/77/EC)達成のためには、何らかの追加措置が必要
2. どの政策措置を選択するかに関わらず、自然エネルギー促進のために最も重要な要素は次の通り；
 - ・十分な価格保証
 - ・政策支援措置の長期的な安定性
 - ・公正で平明な系統へのアクセス
 - ・明快な立地・建設基準
3. 政策支援措置に関して、どこにも適用可能な唯一の「正解」はなく、ポリシーミックスが必要
4. 政策支援措置の種類の選択よりも、その政策支援措置を適切に設計し、モニターすることが重要。そのために、機能性、安定性、継続性が重要な要素となる。
5. 自然エネルギーは種類毎に技術の成熟度が異なるため、制度の選択や設計ではこれを考慮することが必要。具体的には、大手企業が未成熟技術への R&D に投資できる程度の利益に配慮しつつ、成熟技術への過剰な利益は避けねばならない。この点で、「価格低減型の固定価格制 FIT」は参照コストを示すことができる。
6. 新設と既設の設備を峻別すること（とくに証書取り引きなど）
7. 支援措置は、10 年程度の期間にわたる保証が必要。
8. 新古典派によれば欧州全域でのクォータ制度(RPS)が最も経済効率的であると教えるが、政治的にはほとんどあり得ない。なぜなら、
 - ・CO2 取り引き制度との調和がなければ、RES の取り引き(輸入)は自国の CO2 削減に貢献しない
 - ・CO2 削減価値はグリーン証書取り引き(TGC)には含まれない
 - ・TGC の調和が非常に難しい
9. FIT は国際的な目標値に向けて各国での修正は容易だが、各国毎に目標値を導入すると、それを国際的な目標値に変えることは政治的に難しい
10. FIT は補助金ではなく、すべてのスキームが最終的には公衆の支払いによるため、追加支払いは小さい方が良い。
11. 現状の制度が機能している場合には、新しい制度を急ぐ必要はなく、制度変更のリスクも考慮する必要がある。
12. 新制度への移行時期には重大な投資リスクの可能性があり、これを慎重に避ける必要がある。
13. RPS 制度の経済効率性はスポット市場に基づくモデルによるが、実態は長期の相対契約がほとんどを占めることになり、FIT との経済効率性の違いは小さくなる。
14. 経済インセンティブベースの支援措置(FIT、RPS など)だけでなく、規制の改革、組織の変革、教育訓練なども重要。
15. 入札の準備、設備認定、証書の発行と償還、制度の採用と改革などはすべて「トランザクション費用」である。小規模事業者には相対的に「トランザクション費用」の負担が大きくなる。
16. 現実の世界で、現実の政治家を考えれば、慎重に設計された「価格低減型の固定価格制 FIT」がもっとも望ましいことを経験は立証している。

以上